

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年11月17日～2014年11月23日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年12月3日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ロシア・アブハジアの新協定(23日)

- ・ロシア外務省は24日にソチでプーチン露大統領とハジンバ「アブハジア共和国大統領」が会談し、露・アブハジアの新協定に署名すると発表。
- ・ハジンバ「大統領」は、アブハジアのTVで、署名される協定は「アブハジア憲法」に完全に沿ったものであると発言。
- ・アブハジア内では、協定が「アブハジアの主権を脅かす」として署名に反対する声がある。ハジンバ「大統領」を支持する勢力は24日にソフミ市内で協定への署名を支持するデモを計画しているが、並行して、野党勢力も署名に反対するデモを挙げる予定。

【南オセチア】

▼第50回IPRM会合(17日)

- ・参加者は現地の住民の移動の自由や暮らしに対するフェンスや監視機器の影響などについて議論。拘束事案の迅速な解決を歓迎。

▼ロシア・南オセチアの協定案(20日)

- ・南オセチア側の報道によれば、チョチエフ「南オセチア大統領府事務局長」が、ロシアとの間で結ばれる予定の協定案に関する協議が進められているとして、協定は「軍事分野をはじめあらゆる分野でロシアとの関係を質的に新しいレベルに引き上げる」と発言。

2. 外 政

▼EFTAがグルジアとの自由貿易に関する協議の開始を決定(17日)

- ・欧州自由貿易連合(EFTA)の外相会合が開かれ、グルジアとの自由貿易に関する協議の開始が決定された。

▼ガリバシヴィリ首相がストルテンベルグNATO事務局長と会談(17日)

- ・ブリュッセルにて「ガ」首相が「ス」NATO事務局長と会談。9月のNATO首脳会議でNATOがグルジアに提示した「実質的パッケージ」の実施について議論。
- ・会談後に行われた記者会見で「ス」事務総長は、パッケージの内容の一つであるグルジアの国防能力増強に対する支援について、「部隊に同行する訓練者」やグルジアに共同訓練センターを設置することなどを通して実施されると述べた。共同訓練センターについて、「グルジア軍がNATOと協力する能力を維持するのを支援し、グル

ジアおよびその他のパートナー諸国に対し、将来のNATO即応軍への貢献のための訓練を行なう」と述べた。

- ・共同訓練センターに関するロシアの懸念について尋ねられた「ス」事務総長は、「グルジアは主権的な国家であり、NATOは強い信頼のおけるパートナーであるグルジアと協力しており、センターは設置される」と答えた。
- ・グルジアの記者から、NATO加盟を追求するグルジアの方針について何らかの「疑い」を持っていないかと尋ねられた「ス」事務総長は、NATO加盟を追求する方針に関する「『ガ』首相の姿勢は非常に力強く、明確である」として、それを疑ういかなる理由もないと答えた。
- ・「ガ」首相は、NATO加盟はグルジア国民の選択であり、「その目標を達成するために我々は努力を惜しまない」と強調。現在のウクライナにおける紛争は、2008年のグルジアの戦争の継続であると発言。

▼EU・グルジア連合評議会第1回会合(17日)

- ・17日、ブリュッセルにて、連合協定の実施を監督する最高機関であるEU・グルジア連合評議会の初めての会合が行われた。モグリーニEU外務・安保政策上級代表が議長を務め、ハーン欧州近隣政策・拡大協議担当欧州委員も出席。グルジアの代表団長はガリバシヴィリ首相で、他にベルチャシヴィリ外相、バクラゼ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣、ツルキアニ法相、ザカレイシヴィリ和解・市民平等担当国務大臣が出席した。
- ・会合後に行われた会見では「モ」上級代表、「ハ」欧州委員、「ガ」首相が記者の前に現れて声明を読み上げた。「モ」上級代表は、グルジアの民主的発展、査証自由化交渉におけるグルジアの前進を讃え、中央アフリカ共和国でのEUミッションへのグルジアの貢献に感謝。一方で、グルジア国内の政治状況を改善する必要性があるとして、野党の活動や政党間の対話の保証、透明かつ公平な犯罪捜査・訴追を求め、検察が政治的に利用されることがあってはならないと述べた。また、ロシアとアブハジアおよび南オセチアとの間で協議が行われている「協定」は、グルジアとEUが共有する懸念材料であるとして、EUはロシアに対し、グルジアの領土一体性に関する問題を積極的に提起し続けると述べた。
- ・EUは2014年から2017年の間の連合協定の内容に関わるグルジアの政治・司法・経済分野での改革を支援するために4億1000万ユーロの拠出を約束。
- ・「ガ」首相はシュルツ欧州議会議長、アヴラムオプロス移民・内政・市民権担当欧州委員、マルムシュトレーム通商担当欧州委員、カニエテ気候変動・エネルギー担当欧

州委員、スティリアニデス人道支援・危機管理担当欧州委員らと会談。

▼グアタナモ湾からグルジアへの囚人の移送(18日)

・米国防省はグアタナモ湾の刑務所からグルジアに3名のイエメン人囚人が移送されたとして、「グアタナモ湾の拘置施設の閉鎖に対するグルジアの支援に感謝する」との声明を発表。2010年にも3名がグルジアに移送されている。

▼ベルチャシヴィリ外相がチェコを訪問(21日-22日)

・ザオラレク・チェコ外相と会談。「ザ」チェコ外相は、グルジアとの協力はチェコにとって優先的な課題の一つであると述べ、グルジアの欧州との統合に対するチェコの支持を強調。

3. 内政

▼外務次官3名の任命(17日)

・ドンドゥア氏、ギギアゼ氏、トトラゼ氏の3名が新しい外務次官に任命された。第一次官に就任した「ド」氏はこれまで欧州・欧州大西洋統合担当国務次官であった。駐米特命全権公使(1998年~2000年)、NATO大使(2000年~2005年)などを歴任。

・「ギ」氏は2010年から2012年まで外務省欧州局長、2012年以降駐ドイツ特命全権公使。

・「ト」氏は2003年より外務省国際法局に勤務。2012年より国際法局長。

・ジャラガニア次官およびグルゲニゼ次官は留任。

▼クヴィツィアニ氏に対する実刑判決(17日)

・ズグディディ市裁判所は「ク」氏に対し、不法な武装グループの形成および反逆罪により、12年の禁固刑を言い渡した。弁護側は控訴する意向。

・1992年以降、アブハジア内のコドリ渓谷は住民らによって組織された武装グループが支配し、アブハジア内で唯一グルジア中央政府の支配が及ぶ地域であった。2006年7月に武装グループ指導者であった「ク」氏は政府に対し不服従を宣言。その後、政府が軍を派遣したため「ク」氏は逃亡した。2014年2月にロシアから帰国したところを逮捕された。

▼ブルジャナゼ元国会議長がNATOに関する政府の方針を批判(18日)

・ブルジャナゼ元国会議長・「民主運動・統一グルジア」党党首は、EUとの協力を評価し、継続されねばならないとする一方、EUとNATOは明確に区別されねばならないとして、ロシアの提案したアブハジアとの協定案は、グルジアが訓練センターなどについてNATOと続けている「終わりの見えない協議」に対するロシアの回答であり、グルジア政府は実現することのないNATO加盟と領

土一体性の回復のいずれかを選択せねばならないと発言。ガリバシヴィリ首相がブリュッセルにて「ウクライナの紛争はグルジアの2008年の戦争の継続である」と発言したことをロシアとの対話を拒否するものとして非難。

▼通信記録へのアクセスをめぐる議論(20日)

・通信サービス事業者の通信記録に対する治安関係者の自由なアクセスの期限が12月1日に迫るなか、国会は与党連合の提出した2つの案をめぐる議論を続けている。

・ベセリア議員らの案では、通信事業者の通信記録に対する内務省のアクセスは維持されるが、アクセスのためには裁判所および個人情報保護官の許可が必要となる。

・フマラゼ法務委員長(共和党)らの提出したもう一つの案では、通信記録に対するアクセスの権利は内務省から国家通信委員会(GNCC)に移される。

・20日、ガリバシヴィリ首相は内務省からは通信記録に対するアクセスの権利を奪う案には反対であるとして、ベセリア議員らの提出した案が望ましいと発言。

4. 経済

▼2013年のGDP(17日)

・国家統計局が2013年のGDP(調整値)を発表。名目GDPは26,847.4百万ラリ(前年比2.6%増)。実質GDPの成長率は3.3%。デフレーターは-0.7%。

・国民1人当たりのGDPは5,987.6ラリ(3,599.6米ドル)。

▼汚職リスクに関するランキング(17日)

・Trace Internationalが発表した汚職のリスクの低さに関するランキングで、197カ国・地域中グルジアは11位。ロシア134位、アゼルバイジャン140位、アルメニア87位、トルコ70位。

▼2014年第3四半期の農業セクター(19日)

・2014年第3四半期末の時点で、国内の家畜数は1,326,000頭(前年同期比6.1%増)。牛618千頭、羊・山羊1,017千頭(同7.5%増)、豚261千頭(同20.1%減)、鶏9,654千羽(同12.6%増)。

・牛乳の生産量185.8百万リットル(前年同期比3.3%増)、食肉9.0千トン(同3.2%減)、卵118.8百万個(7.3%増)。

▼政策金利を据え置き(19日)

・19日に開かれた金融政策会合でグルジア国立銀行は政策金利を4%に据え置くことを決定。

▼東西ハイウェイの部分開通(19日)

・グルジアの東西を貫くハイウェイのうち、クタイシの市街地を迂回する32kmの区間の開通式が行われた。道路建設の費用をJICAが融資し、日本企業が建設に関与した。東西ハイウェイは過去2年間で55kmが開通。

▼アジア開発銀行からの支援(21日)

・財務省とアジア開発銀行は、グルジアの財政および包括的な成長の支援を目的とした7500万ドルの借款に関する合意に署名。